

はじめに

- 1 実物投影機の接続について
- 2 使い方、コツ、テクニックについて
- 3 授業づくり



機器本体



実物投影機本体



プロジェクターや大型テレビ等

電源コード



接続ケーブル



接続ケーブルの選択



(例) プロジェクターの接続端子

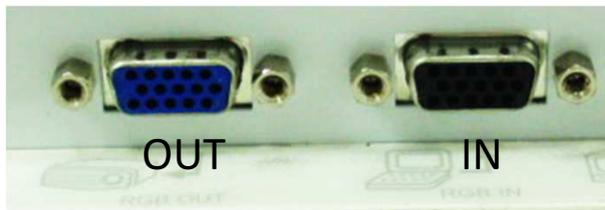


HDMIケーブル



VGAケーブル

出力と入力について



- ・実物投影機は出力端子 (OUT)
- ・プロジェクター等は入力端子 (IN) に接続しましょう。逆に接続すると故障の原因になります。

1 配線をつなぐ

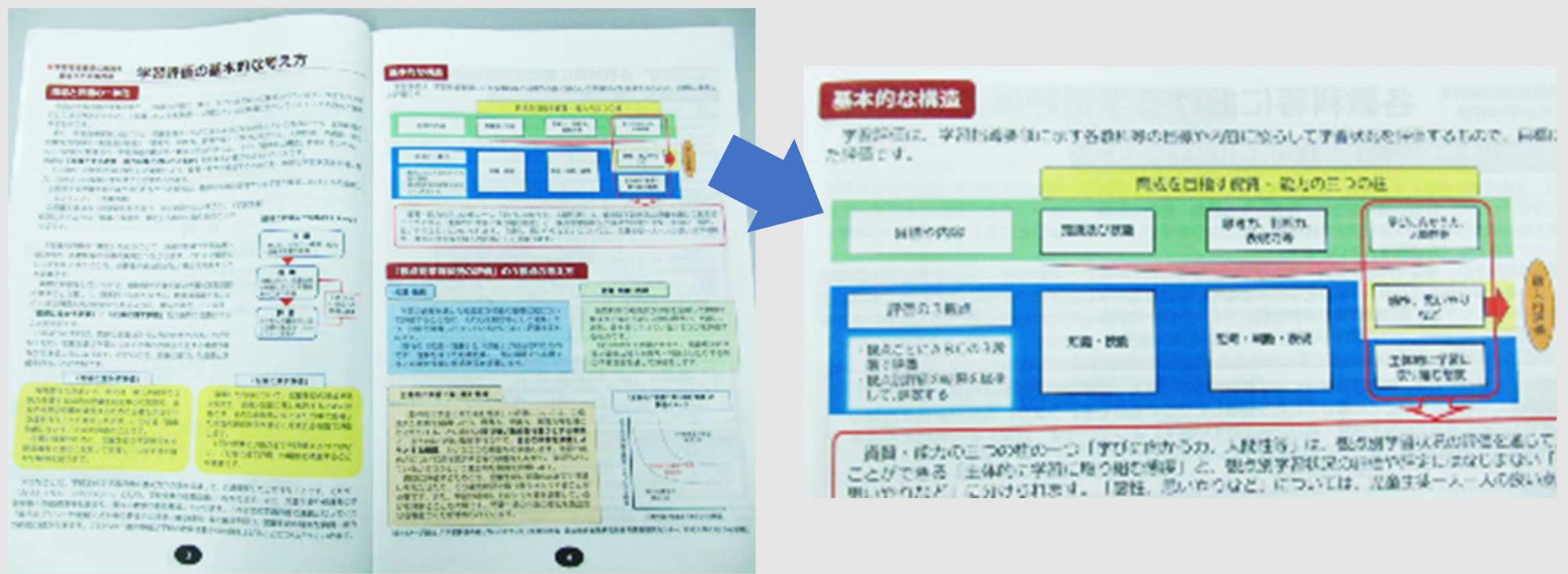
2 電源を入れる

3 画面の大きさを調整する

4 ピントを合わせる

教科書や教材を映す

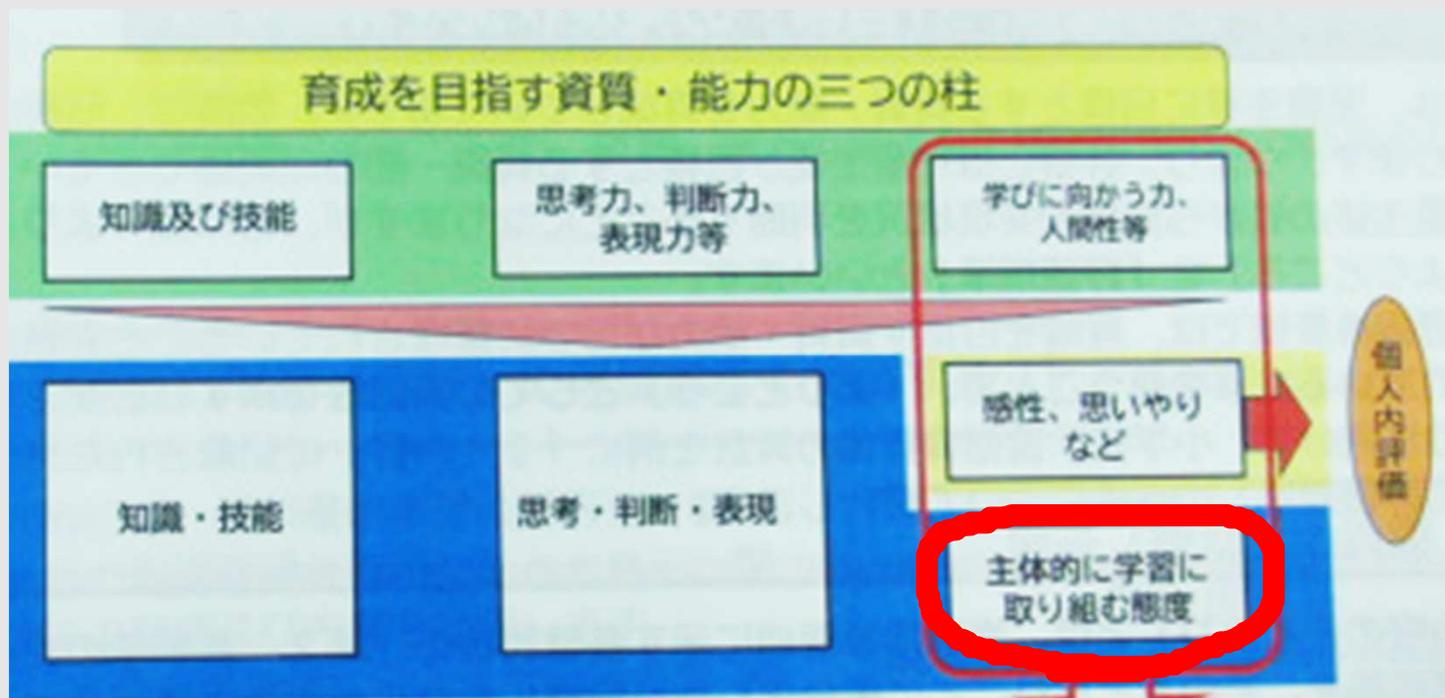
- 教科書や教材を大きく映してみる
- 生徒を見ながら操作できる位置を考え置く位置を決める



書き込みと指し示し

- “書き込み”と“差し示し”を体験する

※書き込みは、下線を引く、○で囲む程度



さらに大きく映す

○ “ズーム”を使って教科書を大きく映す。

※ ピントはオレンジのボタン。



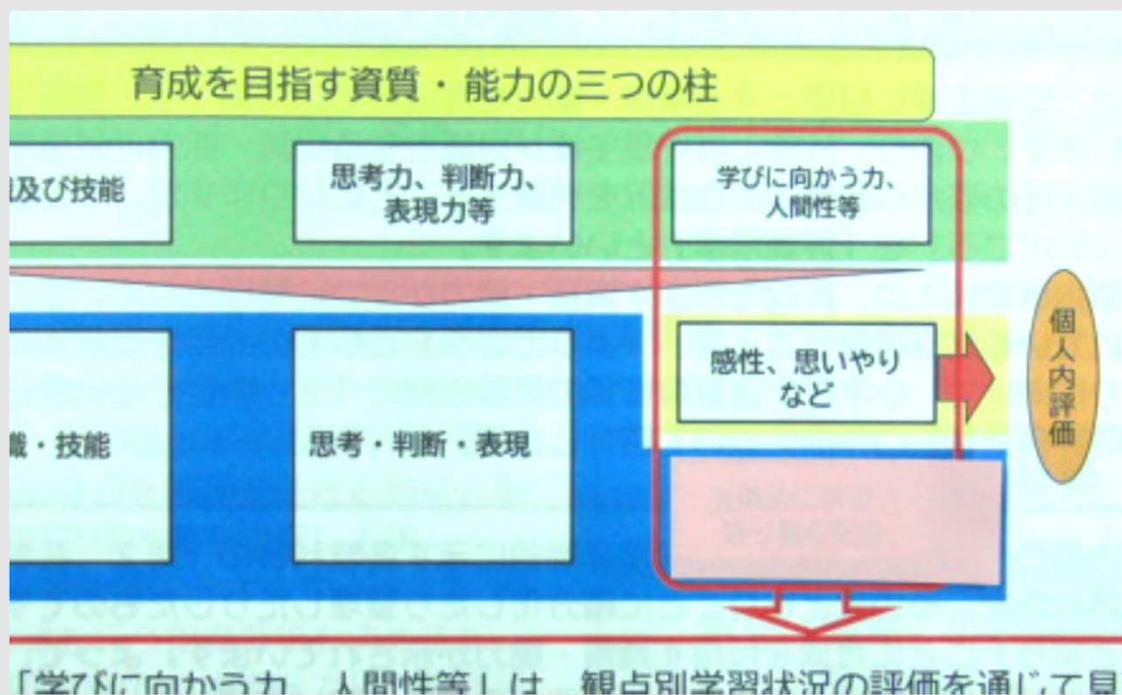
立体物を映す

- “アーム”を使って，立体物や手元，教室の風景などを映す。



大きく映して一部をかくす

- 付箋紙などを使って一部をかくす



見せたいものだけを見せる

- “かくすもん”を使って不要な部分をかくし、見せたいものだけが映るようになる。



特別支援教育
の観点から

集中して学習できるように、必要な部分だけを大きく映します。



かくすもんの有無で、見え方がどのように変わるでしょうか、教科書を映して試してみましよう。

授業場面を考える

- 教材提示装置を活用するとより学習効果が上がる場面を考えてみましょう。
- ※ ポイントは何をどう映すかと、どう発問・説明・指示”をするかです。

はじめに

- 1 実物投影機の接続について
- 2 使い方、コツ、テクニックについて
- 3 授業づくり

